

長野県の植物覚書

今井建樹

Kenju Imai: New and noteworthy plants in Nagano Prefecture

はじめに

長野県内の植物で、注目に値すると考えられるものを本年もここに挙げて記録にとどめたい。関係識者のご叱正を願うものである。

1 ムラサキヤシオツツジ *Rhododendron albrechtii* Maxim.

1995年5月18日、岡谷市今井の標高900mの広葉樹林内で開花中のものを発見した。本種は従来県北部の多雪地帯から筑摩山脈までと、中央アルプス・下伊那の一部（平岡・喬木・小川路峠等）からの報告がある。諏訪地方では初採で分布域が広まったことになる。ここは自然環境が比較的良好に残されているところで、付近にはオオイワカガミ（諏訪地方ではここだけでしか確認していない）も見られる。標本は信州大学(SHIN 181167)に入れてある。

2 ニオイシダ *Dryopteris fragrans* (L.) Schott

1995年6月7日池田登志男氏の案内で浅間山に登ったとき、山麓の岩壁に生えているのを偶然発見した。場所は御代田町浅間方円坊標高1700m。本種は周極要素で北半球の亜寒帯に広く分布するもので、長野県では八ヶ岳の立場川溪谷のみにその産地が知られていた。従って、長野県ではここが第二の産地となる。

3 ヤクシマヒメアリドウシラン *Vexillabium yakushimense* (Yamamoto) F. Maekawa

木曾大桑村の阿寺溪谷にハクウンランがあると言うことで奥原弘人・楯誠治両氏とともに観察に出かけた。その時撮影した写真が信州の野草（奥原弘人著、信濃毎日新聞社）にハクウンランの名で載っている。これをランの研究者足助裕司氏（岡谷市在住）が見られて、これは違



図1. ヤクシマヒメアリドウシラン. 1989.8.12写. 大桑村阿寺溪谷

ってはいないかと知らせてくれた。そこで信大にある標本を井上健博士に同定願った結果ヤクシマヒメアリドウシランだと言うことになった。本種は屋久島で発見されて命名され九州以南に其の分布が知られているものである。長野県では初採であると共に北限となる。現在確認している産地は阿寺溪谷以外では大桑村のぞきど高原（同村の臼井武人氏の案内）との二ヶ所である。

4 ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

本種は全国的に湿地の埋め立て、護岸等によって絶滅の危険にさらされているようである。ところが諏訪市の低湿の水田では至る所にこれを見ることが出来る。特に湿田の休耕地にはこれが多く、長く休耕していると群落が形成

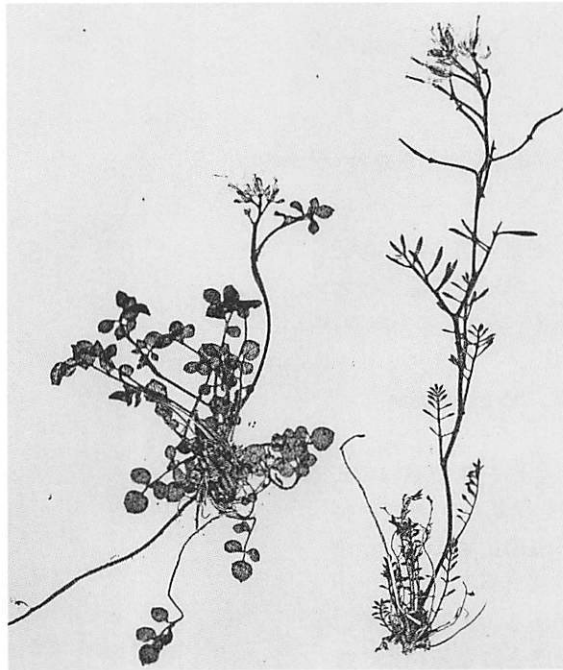


図2. (左)ミヤマタネツケバナ. (右)ホソバミヤマタネツケバナ. Fig. 2. (Right) *Cardamine nipponica* var. *nipponica*. (Left) var. *happeensis*.

されてくる。

1994年に諏訪湖に流入する承知川の河口でこの群落が発見され新聞紙上をにぎわした。この群落は大切に保護されたにもかかわらず翌年の1995年には群落の姿を現さなかった。ところが1995年には諏訪市営のアヤメ園の水路に突然大群落が出現した。このように諏訪湖の周

辺の低湿地には突然この群落が出現することがある。

これらから見てこの種子は土中に長く生き延びていて環境条件によって一斉に発芽し生育を始めるのではないと思われる。それと同時に承知川河口のように環境条件の変わっていないところでも翌年にはこの群落が出現しないと言うことがある。これらの事実等から本

表1. ミヤマタネツケバナと細葉型ミヤマタネツケバナの相違点

	ミヤマタネツケバナ	細葉型
高さ	4～5 cm	4～9 cm
根葉	長さ1～3cm。側小葉は1～4対 長さ2.5～4mm、幅1.5～2mmで 頂小葉より少し小さい。	長さ1～2cm。側小葉は5～8対 長さ1.5～2mm、幅1mm以下で頂 小葉より大きい。
茎葉	0～2個で、基部は茎を抱き 根葉より小さい。	5～8個と多く付け、基部は茎を抱かな い。茎は葉の付け根で屈曲する特徴がある。
花	一茎に2～6個。花弁は長さ4 ～6mm。花柄は2～4mm。	一茎に2～8個。花弁は長さ4～7mm。 花柄4～7mm。
果実	長さ2～3cmでよく目立つ。	長さ1cm内外で目立たない。

種を絶滅の危機から守って行くにはどのような手だてが必要か、興味ある問題がある。

5 水草(ヒルムシロ科)の雑種

1994年9月8日佐久市常田で採集した水草が神戸大学の角野康郎博士の同定結果ホソバミズヒキモ *Potamogeton octandrus* とヤナギモ *P. oxy-bhyllus* の雑種らしいとのことであった。

この水草調査のきっかけは、山崎惇氏が同所から1983年9月18日に採集した標本の同定が未記載のものらしいとなっていたことからである。この標本は不備のものであったので再度確認のため標本採取の必要があった。当日山崎氏は参加できなかったので池田登志男氏に同行してもらった。山崎氏の採集場所と一致しているかどうか不明であるが、同所には確認の必要のある水草があることは確かである。雑種と思われるものは不完全ながらホソバミズヒキモの様な果実がつき僅かながら浮葉も見られ、ホソバミズヒキモに似ている。今後の調査によってこれを確認する必要がある。

6 ミヤマタネツケバナノ細葉型

1991年6月26日白馬村八方尾根の蛇紋岩の岩礫地でミヤマタネツケバナの極めて葉の細いものが目に留まった。調査の結果ミヤマタネツケバナと比較すると表1のようであった。

信州大学にある他の地域の標本を調べたがどこからもこのようなものは見られなかった。これは蛇紋岩地帯での変異型と推測する。未発表のものであると思われるので、ミヤマタネツケバナの変種として記載しておきたい。和名はホソバミヤマタネツケバナ *Cardamine nipponica* Fr. et Sav. var. *happoensis* K. Imai として。標本 長野県北安曇郡白馬村八方尾根(今井建樹 1991.6.26, SHIN0170029)

Cardamine nipponica Fr. et Sav. var. *happoensis* K. Imai, var. nov. Folia caulina angustiora, 5-8, 1.5-2 mm longa, minus quam 1 mm lata. Pedicella longiora, 4-7 mm longa. Capsula breviora. 1 mm longa.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun, Hakubamura, Mt. Happo (K. Imai, SHIN 170029, holotype).

Photo: Fig. 2 (Right).

7 上向きに咲くアオノツガザクラ

アオノツガザクラの花は普通下向きに咲くのに対して、1991年8月9日白馬村八方尾根 標高2360mの地点で上向きに咲くものを見出した。付近には正常の花のものが多く中に、この小集団が見られた。花の咲く向き以外は特に変わった所は見られない。花が空に向かって咲くところからソラムキアオノツガザクラと呼ぶことにした。未発表のものであると思われるのでここに品種として記載する。なおこれは白馬村在住の石原敏行氏の発見になるものである。

標本 長野県北安曇郡白馬村八方尾根(今井建樹 1991.8.9 SHIN 0170020)

Phyllodoce aleutica (Spreng.) A. Heller. f. *erecta* K. Imai, f. nov.

Flores erecti, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun, Hakubamura, Mt. Happo (K. Imai 1991. 8. 9, SHIN 170020, holotype)

8 萼の緑色のアカモノ

1994年6月7日白馬村南神城 標高850mのフナ林の縁で目にとまった。普通花柄と萼が赤色で花冠も赤色を帯びる。ところがこれは花柄と萼が緑色で花冠は白色であった。それに花柄が細く弱々しい感じで、葉はやや大きく薄かった。また花付きも良くなかった。その他は特に変わったところはない。未発表のものであると思われるので、品種としてアオガクアカモノとして記載しておきたい。

標本 長野県北安曇郡白馬村神城(今井建樹 1994.6.7 SHIN 170021)

Gaultheria adenotheix (Miq.) Maxim. f. *viridia* K. Imai, f. nov.

Calyx viridis cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Kita-azumi-gun. Hakubamura, Minami-kamishiro (K. Imai 1994. 6. 7, SHIN 170021, holotype).

9 ミツバオウレンの八重咲き

1994年7月4日山ノ内町志賀高原東館山 標高1900m の針葉樹林下に生えていたもの。ミツバオウレンは普通5枚の白色の萼片が花びら状になっている。本種はその花びら状になっている萼片が小形ではあるが20~30枚位有り、雄しべも総てやや細いが弁化し、雌しべは数多く、しかも大きく上に伸びだして花全体が半球形状となっている。そして花全体が緑黄色である。萼片の多いものは半八重としてヤエザキミツバオウレン f. *semiplena* Okuyamaとして発表されているが、本種はこれとは異なるのでタマザキミツバオウレンとし、品種として記載しておきたい。なおこれは東館山植物園の春原弘氏の発見されたものである。

標本 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原東館山(今井建樹1994.7.4 SHIN170024)

Coptis trifolia (L.) Salisb. f. *plena* K. Imai, f. nov.

Flores plena, cetera ut in typo.

Type: Nagano Pref., Shimo-takai-gun,



図3. タマザキミツバオウレン. 志賀高原東館山. 1994.7.4写. Fig. 3. *Coptis trifolia* f. *plena*

Yamanouchi-machi, Shiga-kogen, Mt. Higashitateyama (K. Imai 1994. 7.4, SHIN 170024, holotype).

Photo: Fig. 3.

あとがき

本報の執筆に当たっては井上健博士のご懇篤なるご助言とご配慮を賜った。また情報等多くの方々にお世話になった。ここに記して深甚なる謝意を表する。